

細胞空胞化とPCR法によるセレウス菌の嘔吐毒の検出

江下倉重, 内村眞佐子: 第43回千葉県公衆衛生学会

セレウス菌の嘔吐毒検出についてPCR法と細胞空胞化試験を行い、PCR法の有効性を検討した。

制限酵素 double-digestion法を用いたパルスゲル電気泳動 (PFGE) 法による *Campylobacter jejuni* 集団食中毒の疫学的解析

依田清江, 内村眞佐子: 第79回日本感染症学会

C. jejuni のPFGEに頻用される制限酵素のうち、2種類を組み合わせて酵素処理 (double digestion) したDNA切断パターンを系統樹解析することで、単独酵素処理の解析では判明しない菌株間の相同性の差異を検索することを試みた。実際の集団食中毒事例の解析で、この方法の有用性を示した。

イグアナが感染源と推定された乳児下痢症患者から分離されたサルモネラについて

依田清江, 内村眞佐子: 第54回日本感染症学会東日本地方会総会

生後3ヶ月の下痢症患者から、人からの分離は非常に希な血清型のサルモネラが分離され、生化学性状検査の結果 *Salmonella* (*S.*) *enterica* *subspecies houtenae* (IV) と同定された。患児は、自宅で飼育されているイグアナから感染したことが強く推定された。日本では初めての事例であった。

生後3ヶ月の下痢症患者から、人からの分離は非常に希な血清型のサルモネラが分離され、生化学性状検査の結果 *Salmonella* (*S.*) *enterica* *subspecies houtenae* (IV) と同定された。患児は、自宅で飼育されているイグアナから感染したことが強く推定された。日本では初めての事例であった。

ふき取り法による市販鶏肉からの *Campylobacter* 検出—複数株による汚染の実態

依田清江, 内村眞佐子: 第26回日本食品微生物学会

市販鶏肉の *Campylobacter* 汚染状況を調べるため、より簡便な検出法を検討すると共に、検出された菌株の相同性をパルスフィールドゲル電気泳動 (PFGE) 法で調べた。我々の考案したふき取り法は、操作が簡便であると共に検出感度が高く、市販鶏肉の *Campylobacter* 汚染率は80%以上であることが分かった。

また、鶏肉は複数の株で汚染され、その割合は様々であること、この状況は実際の食中毒事例で食品やヒトから分離される *Campylobacter* の状況に似ていることが分かり、原因解析の参考となった。

県内産小麦の赤かび病による汚染実態調査と赤カビ毒の選別除去

高橋治男, 第32回カビ毒研究連絡会シンポジウム

小麦13試料について赤カビ毒のデオキシニバレノール及びニバレノールの分析を行うとともに、近赤外領域波長を利用した選別機により選別を行い、赤カビ毒の減衰について調べた。それらのカビ毒汚染は菌の検出率とほぼ相関したが、基準値を超えるものは認められなかった。一部の試料を除けば、選別によりそれらのカビ毒の減少が顕著に認められた。

2004年に実施したRFLP分析成績について

岸田一則, 横山栄二, 内村眞佐子, 第43回千葉県公衆衛生学会

2004年に千葉県内の患者から分離された結核菌のRFLP分析を実施して疫学調査に利用した。検査した70株はRFLP分析で51パターンに分類された。そのうち12パターン (31株) は2株以上の菌株が分類された。異なるRFLPパターンに分類された菌株は、

疫学調査で関連は認められなかった。共通感染源の存在が疑われた9事例18株はRFLPパターンが100%一致した。しかし関連が認められなかった患者でも6事例11株でRFLPパターンが一致した。

3. 著 書

SAJKI JUNKO, 2000 OUTSTANDING SCIENTISTS OF THE 21ST CENTURY-2004, IBC, Cambridge CB2 3QP England

佐二木 順子ほか, ビスフェノールAの低用量影響評価データ集, 平成16年度厚生労働科学研究 (化学物質リスク研究事業), 監修 関澤 純, 平成17年3月